

## 自己評価報告書

平成23年5月26日現在

機関番号：82628

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2009～2011

課題番号：20730384

研究課題名 (和文) イギリスにおける医療圏と地域医療連携に関する歴史的研究

研究課題名 (英文) The Transformation of Regionalism and Inter-sectional Collaboration in the British Health Care System

研究代表者

白瀬由美香 (SHIRASE YUMIKA)

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障応用分析研究部・第4室研究員

研究者番号：50454492

研究分野：社会福祉学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：医療提供体制, 地域医療計画, 医療圏, 連携, 専門職, NHS, イギリス

## 1. 研究計画の概要

本研究は、イギリスの National Health Service (NHS) の変遷を地域医療計画の展開という観点から捉え直し、サービス間の連携を促進するためにどのような取り組みがなされたのかを、バーミンガム市などの中心的な地方都市における施策を軸として検討する。それにより、現場のサービス従事者はいかにして政策の限界を克服し、保健・医療・福祉サービスの連携を図ったのかを検証する。また、イギリスの地域医療と連携の特色を地域社会に即した形で解明し、現代に至る NHS の変遷を福祉国家の展開の中に位置付けることを目指す。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) 研究方法

本研究は、戦後イギリスの保健医療政策に関して、①地域医療計画による医療圏の変化、②地域医療連携の実態という2つの視点から研究を進めた。現地の資料館や公文書館等で入手可能な一次資料および内外の二次研究の成果などの史資料に基づいて検討を行う。また、史資料に基づく考察の妥当性を検証するため、イギリスの社会福祉学・歴史学・看護学等の研究者、NHS 関係者にヒアリングを行った。

## (2) 研究経過

## ① 地域医療の管理体制

地域医療の管理運営体制は、NHS 改革のたびに変更が加えられてきた。1974年、1982年の改革は、患者の長期間の待機問題を解決し、地域ごとのサービス管理の効率化を目指していたが、目覚ましい効果は得られなかった。1990年改革で準市場メカニズムが導入

されて以降、NHS はプライマリ・ケアに重点を置いた医療制度へと転換された。同時に患者中心の医療を推進するため、従来の一次・二次医療圏を超えた受診を可能とする措置や一次医療で専門的なサービスの提供も開始されるなど、医療へのアクセスには変化が起ころつつあるという流れが確認された。

## ② 地域医療連携の実態：

## (A) 病院と診療所の関係

NHS の発足は、病院と診療所との明確な機能分化を実現し、イギリスの地域医療は長年その枠組みのもとで提供されてきた。専門的な医療は地区総合病院 (District General Hospital) に集約され、患者は診療所からの紹介を通じて病院へのアクセスを得た。

1990年代の準市場の導入を経て、ブレア政権以降、プライマリ・ケアを重視する方向性が決定づけられた。診療所から病院への紹介が必要である点は変わらないが、病院で提供されていた専門的医療を、コミュニティでの提供に移行する改革が進められた。そして、検査等の複合的な設備・機能を持つ大規模診療所の導入も行われた。

このように各々の医療機関で提供されるサービス範囲は時代によって異なることから、従事者の働きかたの変化についても検証する必要があると考えられた。

## (B) 医療従事者の業務内容の変化

医療サービスの供給には、医師や看護師などの存在が不可欠であり、医療従事者がどのように結びつけられているのか、どのように連携しているのかが、供給されるサービスの形を特徴付けることにもなる。

NHS の発足によって、多様な医療従事者

が制度の上では結びつけられたものの、診療所の GP は単独で診察することが多く、他の職種との協働や連携が実際に進展したのは 1960 年代以降であった。たとえば、各地の病院やグループ診療所に訪問看護師や保健師が配置され、患者の予診や退院患者の予後管理、健康診断など様々な診療補助業務に従事するという変化が 1960 年代末にあった。

近年のイギリスでは、処方を除いて医療専門職の業務範囲は法令で細かく規定されていないため、看護師やコメディカルの担う役割は、臨床現場の必要に応じて柔軟に拡大されていた。しかし、それは医師の専門職としての特権的な立場が減退したために業務が減ったということではなく、業務増加に対応するための円滑な連携を模索した結果であるように見受けられた。

### (C) 医療と生活支援との連携

高齢者への訪問看護やホームヘルプなど在宅サービスは、1950～60 年代は NHS のもとで提供されていた。ホームヘルプは元来、妊産婦のいる家庭での家事援助を目的としていたが、次第に高齢者の利用が増加したという変化が史資料の分析によって浮き彫りになった。1970 年代以降、ホームヘルプが地方自治体の社会福祉サービスに移管されると、現在に至る医療との分離が決定づけられた。その解決策として、2000 年代には一部の地域で NHS のプライマリ・ケアに社会福祉サービスを統合した「ケアトラスト」が形成された。両者の連携に依然として存在する困難は、国と地方との関係にもかかわる問題であり、地域史の資料をさらに分析する必要性があるといえた。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

本研究に着手して以来、継続的にイギリスで現地調査を行い、現地の研究者からの助言を得て、史資料の収集と分析を行ってきた。毎年学会等で研究成果の中間報告をし、論文の投稿・公刊に務めてきた。特に平成 22 年度は、地域社会で生活する人々の暮らしと医療との関わりの変化という観点から、NHS の展開を概観する作業を行い、図書の分担執筆をした（本年度刊行予定）。その作業を通じて本研究の全体像について、改めて見取り図を描くことができ、確実に研究が進展したと思われる。

### 4. 今後の研究の推進方策

最終年度である本年度は、本研究課題全体のまとめに向けて、以下の 2 点について、これまで収集してきた史資料の分析を集中的に進める計画である。

(1) 医療政策における患者・医療従事者の位置付け

患者本位の医療ということが昨今の NHS では強調されている。医療政策への住民参加は 1974 年に開始され、1991 年には「患者憲章」が制定され、医療制度における患者の権利と義務が明示された。その後も形を変え、多様な取り組みがなされている。こうした変遷を踏まえ、患者の位置づけへの検討を通じて、同時に医療従事者の役割を検討する。

(2) 医療制度と公衆衛生との関係性

20 世紀に入り、公衆衛生施策の中心が環境衛生から対人保健へと変化をして行く過程で、保健医療サービスにおける母子福祉の位置づけは重要なポイントであった。そこで、医療保障制度と公衆衛生との関係を探るべく、NHS 発足以後の母子福祉 (Maternity & Child Welfare) の変遷を検討し、助産師や保健師、公衆衛生医の活動と病院・診療所との関係などを検証する。

学会での報告や投稿論文の執筆については、本年度も引き続き積極的に取り組んでいく。その過程で、イギリス医療政策の研究者と意見交換を行うほか、補足的な資料収集をするため短期間の現地調査を実施する予定である。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

①白瀬由美香「英国における看護師の職務拡大：看護師による医薬品の処方に関する検討」『社会政策』査読有り、第 3 巻第 1 号、2011 年、pp.102-112.

〔学会発表〕(計 4 件)

①白瀬由美香「イギリスにおける上級看護師の役割に関する考察：養成システムと業務内容に注目して」日本保健医療社会学会第 37 回大会、2011 年 5 月 22 日、大阪大学

②白瀬由美香「英国におけるホームヘルプ事業の展開：1948～74 年の医療・介護の関係をめぐる検討」日本社会福祉学会第 58 回秋季大会、2010 年 10 月 10 日、日本福祉大学

③白瀬由美香「看護師の職務拡大と地域医療連携：イギリスにおける処方権の委譲をめぐっての考察」社会政策学会第 119 回大会、2009 年 11 月 1 日、金城学院大学

④白瀬由美香「イギリスにおける地域医療改革：ポリクリニック構想の特徴と課題」社会政策学会第 117 回大会、2008 年 10 月 11 日、岩手大学